

筑波大学ヒューマンバイオロジー学位プログラムは博士課程教育リーディングプログラムとして2011年度より発足した5年一貫制の博士課程プログラムです。ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的トップリーダー養成を目的としこれまでの大学院教育のイメージを超えた革新的で新しい試みが多数行われています。本プログラムの今をお伝えするHBP ニュースレター、プログラムのリアルな姿や履修生たちの様子をお伝えします。

～HBPパーティ 2013/3/22～

2012年4月より始まった筑波大学ヒューマンバイオロジー学位プログラムは2013年の3月で開講から1年を迎えました。

1年間の学びを振り返り、お互いの努力と成長を労うため、履修生たちが共同生活を行う追越インターナショナルドミトリーに教職員を招き、履修生が企画を行いパーティを実施しました。

※HBP 履修生は最初の1年間はドミトリーでの共同生活を行います。

HBPパーティ当日の様子



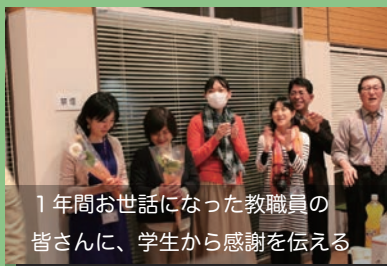
会場となった追越
インターナショナルドミトリー



永田前プログラムコーディネーター・現筑波大学学長を囲んで



パーティー中の談話、
1年間の成長を感じる



1年間お世話になった教職員の
皆さんに、学生から感謝を伝える

学生宿舍等学生支援体制に関してはこちら → <http://hbp.tsukuba.ac.jp/#/support/>

HBPの国際的な学習・研究環境

HBPでは「国際性の日常化」をプログラムの特色の一つとして、学生を海外に送るのみならず、世界各国から留学生を受け入れるとともに、授業は英語で行います。筑波にしながら、多様な考え方や学業や研究への姿勢を日々体験することができる学習・研究環境づくりを行っています。



積極的な質問や意見が
飛び交う授業



プレゼンを行う機会も頻りに



世界各国から集う履修生たち

「日本とは違う考え方・習慣を日々感じることができる。世界の人々とコミュニケーションを取ることを、日常を通じて体感します。クラスメイトは積極的でレベルが高く、自分が気がつかなかった大切な視線を与えてくれて刺激をもらいます。ポジティブな姿勢で学習に取り組むことができる環境です。」(A.Takemura)

現役履修生の声

「ワールドリーダーズサイエンスセミナーなど、筑波に居ながらにして世界のトップレベルの研究に接することができます。学会とは違い少人数で話を聞くことができるため、身近に活発な議論をすることができます。」(M.Hashimoto)

HBPが標榜する国際性の日常化とは？

大学における国際化は、ものすごい勢いで全国の大学で進んでいます。

筑波大学は、日本の大学の中でも有数のトップランナーとして国際化に向けて前進しています。ここHBPにおいては、周りで国際化が進む中で、際立って異彩を放っています。なぜなら、HBPにおいて、既に「国際化」という概念がなくなっているからです。日本人学生と外国人学生が英語という共通言語を用いて共に生活し、授業を受けるこのHBPの環境にあっては、「国際化」ではなくきわめて「普通」でしかないので。すなわち、「国際化」を美旗に改革を進めているということは、まだまだ国際化に到達出来ていない状況を示しているに過ぎません。「普通」である環境が学生にもたらすものは計りしれないのです。



大根田 修 教授 HBP 国際連携委員会委員長

「プログラムの魅力」について、履修生たちがコメント動画です。 → <http://www.youtube.com/watch?v=uEvMcv3fMnY>